

## 泳ぐ宝石 初せり

J Aは4月7日（金）、J A錦鯉市場でニシキゴイの初せりを行い、今年取引をスタートしました。生産者や買い付け人、J Aの役員ら約30人が市場を訪れ、開場を祝いました。

ニシキゴイは「泳ぐ宝石」とも呼ばれ、新潟県の鑑賞魚にも指定されています。番台のかけ声の下、市場内の水路に「舟」と呼ばれる青いケースで運ばれるニシキゴイを、買い付け人が次々とせり落としました。この日は32の生産者が223舟を出荷しました。

J Aの藤島睦組合長は、あいさつで「ニシキゴイの初せりは、東山地区で春を呼ぶ行事として親しまれている。今年は春の訪れが早く、市場の周りを見渡しても雪が少ない。これから11月末の納会まで、安全・安心な市場運



▲ニシキゴイを競り落とす買い付け人

営に努めていく」と話しました。ニシキゴイ生産者で、J A理事を務める大塚嘉和さんは「資材の値上がりなどで経済情勢は厳しいが、初せりに始まり、毎週活気のあるせりに期待している」と話しました。

## 農機セルフメンテナンスを学ぶ

J Aは4月1日（土）、J A片貝車輛農機センターで、田植機セルフメンテナンス講習会を開きました。J A自己改革の一環で、農業機械のコスト低減の支援活動として行っています。組合員や地域住民ら計23人が参加しました。

講師は、クボタアグリサービス(株)の新潟サービス技術部の海沢一紀係長が務めました。田植機を見ながら、各部品の役割や点検方法などを説明し、「作業で最も重要なのは安全性」と強調しました。けがをしないために必要なものとして、①作業ができる服装②軍手③安全靴④保護眼鏡⑤帽子——を挙げました。



▲万全の準備を呼びかける海沢係長

など、万全の準備をしてほしい」と呼びかけました。

## 播種作業 最盛期

J Aの育苗センターでは、播種（はしゆ）作業が最盛期を迎えました。田植えに向け、4月下旬までに、「コシヒカリ」など11品種約14万8000箱の播種を行いました。

全自動の機械で苗箱に床土、農薬、種もみ、覆土の順に入れ、かん水をします。種もみは環境への配慮と安全・安心な作り

の取り組みとして温湯消毒したものを使用します。出芽室で蒸気出芽を行い、ビニールハウスに並べます。

J A営農生産部米穀販売課の和田孝昭課長は「適切な管理をすること、良質な苗を利用者



▲ビニールハウスに苗箱を並べる作業員ら

に提供したい」と話しました。同センターはビニールハウス27棟を所有しています。1棟当たり約3000箱の苗が並べられます。硬化苗の受け渡しは5月5日（金）から始まり、初日は「こしいぶき」「こがねもち」などの早生品種を中心に約5200箱を受け渡しました。

## 農業に興味を持つきっかけに

J Aは、小千谷市教育委員会を通じて市内の小学校などに補助教材とJ Aオリジナルノート（連絡帳・自由帳）を贈りました。

補助教材は、J Aバンクアグリサポート事業の食農教育応援事業の一環です。高学年向けに食農・環境教育をテーマとした「農業とわたしたちの暮らし」の児童用と教師用の一

式約250冊を贈りました。

新1年生にはJ Aオリジナルノート、約400冊を贈りました。

4月11日（火）に行った贈呈式では、J Aの藤島睦組合長が松井周之輔教育長に補助教材の目録、J Aオリジナルノートを手渡しました。教育本購入などに役立ててもらうため、図書カード10万円分も贈りました。

藤島組合長は「子ども



▲補助教材などを手にする藤島組合長④と松井教育長

ものうちに農業に触れる機会が少ない。農業に興味を持つきっかけになれば嬉しい」と話しました。松井教育長は「教材は写真が多いので小学生でも見やすい。また、書き込みができるので使いやすい」と述べました。



## 感謝の気持ちを込めて清掃活動

J Aは4月11日(火)、地域貢献活動として市内で今年1回目の主要道路清掃活動を行いました。支店協同活動の一環で支店職員ら22人が参加し、道路脇を歩き、ごみ拾いを行いました。

清掃活動は平成25年から取り組み、今年で11年目です。職員

は2人1組のペアに分かれ活動しました。それぞれ約2・5㎡にわたってごみ袋を片手に、空き缶やペットボトルなどのごみを拾い集めました。この日掃除した歩道の総延長は28キロほどで、集めたごみは90リットル用のごみ袋約20袋分に達しました。

四ツ子プラザ店の堀井悟プラ



▲歩道のごみを拾い集めるJA職員

ザ店長は「地域の皆さんへ感謝の気持ちを込めて清掃活動を行っている。今後も地域のJAとして、この活動を続けていきたい」と話しました。

清掃活動は年2回行っていて、次回は11月の予定です。

## 農産物検査で特別表彰を受賞

J Aは新潟県農産物検査協会から、農産物検査鑑定競技会での成績優良団体に対する特別表彰を受賞しました。会員J Aごとの検査員の平均得点が令和3年度、令和4年度と2年連続で、新潟県内1位だったことによるものです。

協会は農産物の信頼性を確保するため、鑑定技術制度の向上と検査程度の統一を目的に、競技会を行っていません。競技会では、水稲うるち玄米などを使用し、「コシヒカリ」「こしいぶき」などの品種や等級の判定、整粒値判定などを採点し、順位を決めます。

J Aの藤島



▲表彰状を手にする藤島組合長㊟

睦組合長は「検査員の鑑定技術は全体的に上がっている。適正な検査によって信頼性を確保するとともに、安心・安全な魚沼米を維持し、更なる品質向上と拡大販売に努めたい」と話しました。

# タイムトラベル ~ Back to JA Future ~

令和5年度はJA越後おぢや20年目を迎えます。先月号では13年前の平成22年4月号を振り返りました。

## 第2回目は19年前の『平成16年5月号』です。

平成16年は合併1周年の年で、特別企画旅行が開催されました。1泊2日で、行先は『月岡温泉 白玉の湯 華鳳』。組合員182名からご参加いただき、大盛況の旅になりました。

「綾小路きみまろ」の大漫談ステージの他、4組の芸人が登場し、会場を盛り上げました。翌日は寺泊で、新鮮な日本海の幸を求め、帰路につきました。

華鳳では、合併15周年記念旅行の際にも「月岡温泉華鳳で過ごす2日間の旅」を行っています。多くの皆様からご参加いただきありがとうございました。



▲平成16年5月号話題より

JA小千谷市とJA片貝町が合併し、JA越後おぢやが誕生してから1周年を記念した特別企画旅行。当時は片貝中央支店共済課の課長補佐として、旅行に添乗いたしました。合併後のそれぞれの組合員の交流にもなり、大変盛り上がった旅行だったことを覚えています。

金融共済部 藤塚部長

## 健康情報ひろば



【手術室】と聞いて皆さんはどんな印象をお持ちですか？

JA新潟厚生連小千谷総合病院  
手術室 吉田 優子

お腹を切るところ(;) 痛い よくわからなくて怖い かっこいいドクターが「メス」なんて言う かっこいい女医が「私失敗しないので」(笑)などと、いろんなイメージがあると思います。

手術室とは、体にメスを入れて治療を行うところです。医師 看護師 放射線技師 臨床工学技士等いろんな職種で手術に関わっています。

私たちが看護師が手術を受ける患者さんに対して大切にしていることは、まず「患者さんの不安な気持ちに寄り添うこと」そして「手術が予定通り進み患者さんが安定して手術室をでることが出来るように医師と協力し自分たちの役割を果たす事」です。手術って、漠然とした不安があるだろうな... と思います。外来や病棟の看護師はなじみがあるけど、手術室の看護師って... ちよっとわからないと思います。そこで私たちは患者さんが安心して手術室に來られるように、『術前訪問』という手術前の顔合わせに行きます。

そこでは手術のことをお話しさせて

もらいます。手術前の準備や手術室に到着してから手術が終わるまでを簡単にお話しします。手術前ですから緊張している方が多いですが、まずはお顔を拝見して笑顔で挨拶させてもらい、少しでも気持ちいがほぐれたらいいなと思います。カルテからも情報を取らせてもらいます。大切な情報は、術前に担当チームで情報共有し、手術中の状況に応じた対応ができるようにしています。

その人にとっての手術とは、その時一回きりのまさに人生の一大イベントです。自分たちは患者さんおひとりおひとりを大切に思い、きちんと関わられるようにしたい、何より笑顔で患者さんと接する自分でありたいというも思っています。☺

【手術室】と聞いて皆さんはどんな印象をお持ちですか？

